

こども未来会議（第2回）

令和2年12月18日（金）

【山本部長】 ただ今より「こども未来会議」の第2回 Web 会議を開会させていただきます。本日はご多用の中、ご参加いただきまして、誠にありがとうございます。会議の事務局を担当しております東京都 政策企画局 長期戦略プロジェクト推進担当部長の山本でございます。よろしくお願いいたします。まず、本日の出席者につきまして、ご報告させていただきます。安藤委員より、欠席のご連絡を頂戴しております。また、本日は2名のプレゼンターの方々にもご参加していただいておりますので、ご紹介させていただきます。日本総合研究所調査部上席主任研究員、池本美香様でございます。明治大学政治経済学部教授、明治大学付属明治高等学校・明治中学校校長、安藏伸治様でございます。

それでは、ここからの進行につきましては、秋田座長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

【秋田座長】 おはようございます。よろしくお願いいたします。本日のテーマは、「世界の少子化対策・子供子育て支援～エビデンスに基づいた少子化対策・「子供の笑顔」につながる子供子育て支援のあり方～」です。画面の次第に沿いまして、進めていきたいと思っております。

それでは、開会に当たりまして、まず、小池知事より一言ご挨拶をお願いいたします。

【小池知事】 皆様、おはようございます。本日は、第2回のこども未来会議でございます。ご参加に対しまして、心から感謝申し上げたいと存じます。

毎日コロナ、コロナで、非常に厳しい、そしてまた忙しい毎日を送っているところでありますけれども、今日はこの会議で、ぜひ前を向いて、そして明るい未来を、そしてそれを担っていく子供たちのことについてお話ができればと、楽しみにして参っているところでございます。また、皆様方もお忙しいところのご出席、誠にありがとうございます。

コロナという見えざる敵に打ち勝つこと、現在の都政の最大の使命でございます。そして、こういう状況にあっても、子供たちの笑顔を育て、そして人が輝く東京の実現をしなければならない、そういう思いでございます。そして、一步一步、前へ前へと進んでいくことを皆様方とともに歩んでいきたいと考えております。

そういう中で、今日のテーマでございますけれども、世界の少子化対策、そして子供子育て支援についてでございます。

1989年といいますから、今から約30年前になるかと思っておりますけれども、当時1.57ショックといって、覚えていらっしゃると思いますよね。出生率が1.57に下がったということから、当時のショックは大変大きいものがございました。そのときにどのような形で対策を練っていくのか、予算はどうするのか等々、いろんな分野から語られたわけでありましてけれども、ショックというのは、毎年続いてしまうとショックでは無くなってしまおうということもございます。

現在であります、特に東京、若い女性が多いということもございましょう。合計特殊出生率が1.15ということでありまして、そして懸念されるのが、今回のコロナの影響によって、この数字が更に下がっていくのではないだろうかということなんです。よって、このずっとショック慣れしているところにコロナショックがあつて、むしろここを契機にして、改めて大きな社会の課題であります少子化対策ということについて、しっかりと対応を考えていかなければならない。少子化から脱却していかなければならない。そのためには何をすべきなのか。エビデンスに基づいて、議論を進めていきたいと考えております。

本日は、日本総研の池本様、そして明治大学の安藏様にプレゼンターとしてご参画いただくこととなっております。どうぞよろしく願いいたします。

そして、少子化を乗り越えて、「子供の笑顔」でいっばいのまちを実現していく、そのことがコロナの後も、ただ元に戻るのではなくて、サステナブルリカバリー、持続可能な回復、このことを目指す東京の大きな柱にしていきたいと考えておりますので、どうぞよろしく願い申し上げます。活発な議論、期待しております。よろしく願いいたします。

【秋田座長】 小池知事、大変力強いメッセージありがとうございます。

続きまして、事務局から報告事項のご説明をお願いいたします。

【山本部長】 まず、前回委員の皆様から頂戴いたしましたご意見、ご提案への対応状況につきまして、ご報告申し上げます。

初めに、こども未来会議のダイジェスト動画の作成についてでございます。

こども未来会議の議論を広く子供たちに発信するため、第1回の議論のポイントを6分のダイジェスト動画として取りまとめました。本日は、時間の都合上、1分に編集した動画をご紹介します。ご覧ください。

<動画紹介>

動画につきましては、都内の小、中、高等学校等を通じまして、子供たちに広く周知するとともに、東京都公式動画チャンネル東京動画やYouTubeなどによりまして配信してまいります。

次に、防災ノートにおけるやさしい日本語の使用でございます。

前回の議論を踏まえまして、防災ノートの表現を、子供の発達段階に応じて、より分かりやすいやさしい日本語に今後見直ししてまいります。

また、子供向けの東京都ホームページの作成につきましてもご提案をいただいたところでございますが、「都政と子供がつながる」をコンセプトに今後検討を進めてまいります。

続きまして、本日のテーマの「世界の少子化対策・子供子育て支援」につきまして、フランス、スウェーデン、ドイツ、オランダの事例をご紹介します。

まず、各国の合計特殊出生率の推移についてでございます。1960年代までは、いずれの国も出生率がおおむね2.0以上の水準で推移しておりましたが、70年代から80年頃にかけて全体として低下傾向となり、その後90年頃から出生率が回復する国も見られております。

次に、各国の出生率の推移と主な政策につきましてご報告申し上げます。

まず、フランスでございますが、フランスでは1930～40年代という早い時期から経済的支援の枠組みを創設し、多子世帯への重点的な支援に取り組んできた点に特徴がございます。80年代以降、保育の充実へシフトし、さらに子育てと仕事の両立支援が推進されており、こうした中で出生率が回復しております。

次に、スウェーデンでございます。スウェーデンでは、1970年代以降、比較的早い時期から総合的な両立支援が推進されました。その後80年代から2000年代にかけて、出生率が上昇した2つの山がございます。1つ目の山の80年代には、出産間隔の短縮についてインセンティブを付与する政策が実施されました。2つ目の山の90年代後半以降には、経済雇用情勢が改善する中、手当給付の改善や両立支援の充実などが推進されております。

次に、ドイツでございます。ドイツにつきましては、これまで出生率は比較的低い国とされてきましたが、近年回復してきたという事例でございます。1990年代に入りまして育児休業などの充実を図りましたが、依然として経済的支援が中心であり、出生率は低い水準で推移しました。その後2000年代後半に入りまして、両立支援を充実させたことなどを背景に、出生率は回復傾向にございます。

次に、オランダでございます。オランダは、出生率がとりわけ高いというわけではございませんが、子供の精神的幸福度が高く、また働き方に特徴のある国でございます。1970年代後半の経済危機を契機に、雇用確保のための労働時間の短縮、パートタイム労働の拡大が進展しました。その後80年代以降、女性の社会進出が進み、育児休業の導入や多様な働き方を認める労働政策など両立支援が推進されました。

以上を踏まえました4カ国を通じた考察、まとめでございます。各国においては、さまざまな制度により、所得や子供の数に応じた経済的支援に加えまして、両立支援を実施しておりますが、近年は両立支援を軸に展開する傾向にございます。両立支援につきましては、保育所整備や育児休業制度などに加えまして、多様な働き方を選択できる環境整備を推進しています。

続きまして、両立支援に関わるデータについて、幾つかご紹介させていただきます。

まず、労働時間につきましては、日本は諸外国に比べ、1週間当たり7時間程度長い状況でございます。

次に、各国の家事・育児時間についてでございますが、日本は諸外国に比べ、妻の家事・育児時間が長く、夫が短くなっております。

最後に、子育て期の働き方に特徴のあるオランダの事例につきまして、ご紹介させていただきます。

オランダでは、子育て期は、柔軟な働き方を活用しながら、女性は週3日から4日勤務、男性は週4日から5日勤務が一般的と言われており、共働きの場合には夫婦で平日の休みをずらし、子供と過ごす時間を大切にすることが特徴と言われております。こうした働き方のベースとしまして、各種労働法令により、多様な働き方を選択できる環境が整備されているところでございます。

説明は以上でございます。

【秋田座長】 ありがとうございます。それでは、プレゼンターによる発表に移りたいと思います。お二方からプレゼンテーションをいただいた後に、意見交換をさせていただきます。

まず、池本様から、「海外に学ぶ子どもを幸せにする少子化対策」をテーマに 10 分程度でお願いしたいと思います。

池本様、よろしくお願いいたします。

【池本プレゼンター】 よろしくお願いいいたします。それでは、私のほうからは「海外に学ぶ子どもを幸せにする少子化対策」というテーマで、海外の子供・子育て支援の具体的な事例などについて、ご紹介させていただきたいと思います。

次お願いします。

まず、日本の少子化対策、先ほどもお話ありましたけれども、出生率 1.57 ショックが 1990 年にありまして、そこから 30 年経つんですけれども、ざっと大まかに捉えますと、やはりその直前に男女雇用機会均等法がありましたので、とにかく子供を生んでも男性並みに女性が働けるようにというところに重点が置かれまして、保育所整備、保育時間延長というところに政策は向かっていったかと思います。私もそこは非常に重要だと思って、先ほども仕事と子育ての両立ということがございましたけれども、その結果がどうなったのかということで、この 30 年の子供の状況を見てみますと、ここざっといろいろ挙げておりますけれども、子供の状況としては、むしろ悪化している、子供が幸せになっているようには思えないというような状況があるかと思います。

そこで、いろいろ少子化対策、もちろん他の対策も重要なんですけれども、基本的に今いる子供たちが幸せそうで笑顔でなければ、子供を持ちたいと思う人が増えるとは考えにくいところで、それが少子化の一つの要因になっているのではないかというふうに考えております。

私も、その 90 年代頃から、海外では仕事と子育てどうやって両立しているかということをいろいろ海外の調査をする機会があったんですけれども、延長保育どうですかと聞きますと、延長保育というのは子供にとっては負担じゃないですかというようなことを海外の方からいっぱい言われまして、それで海外の視点というのは本当に子供を幸せにするというところで動いているなということを感じて、今日はその事例についてご紹介したいと思います。

次お願いします。

今日は 4 カ国ご紹介します。1 つ目がノルウェーです。

ノルウェーは、1981 年に子どもオンブズマンを設置している国で、かなり子どもの権利ということに重点が置かれている国だと思います。ここに私も調査で行く機会があって、政府のパンフレットを見たときに、その家族政策の目的はノルウェーにいる子供や親が幸せになることなんですというフレーズがありまして、すごくびっくりしました。日本は、当時とはとにかくどうやって延長保育を増やすとか、保育をどう充実させるかというところばかりだった時期でしたので、そのギャップに非常に気が付いたということです。

具体的な例をここに挙げております。1 つは、全ての子供を支援するという考え方から、98 年

には親が家で子供を見る場合にも保育所に出ている補助金を現金で渡すという制度ができたというところで、非常にびっくりしました。ただ、もっとびっくりしたのは、それでそのまましておかないで、実際にその手当が子供のためになっているかということを検証した結果、実はお金を配るだけでは、移民の親などが孤立して、子供の体験も保育所の子供と比べると不足する、そして親が仕事を辞めて貧困になるということで、あまりよくないねということが分かったと、今度は1歳から保育所に行くと全ての子供が通えるように権利を付与しようと、そういう政策転換を図っていくというところで、あくまでも子供のためにどうするか、全ての子供にどうするかという視点での政策があるということです。

それから、保育施設に親の会と親代表が参加する運営委員会の設置義務というのが、これも親同士がつながりやすくする、あるいは親の意向を反映して質の高い保育を実現していくという観点から導入された施策で、こういったものもなかなか日本ではあまり注目されていない事例かと思えます。

それから、放課後児童クラブも日本も大きな問題ですが、ノルウェーでは学校長が自分たちの学校の子供のために放課後児童クラブ必要だったら整備するというような、学校長の責任で整備するというやり方をやっていたり、あるいは高学年の子供はあまり放課後児童クラブにずっといたくないよねということで、むしろ子供は自由に地域で過ごせるような場所の充実ということを行っているということもあります。

右は、本当に子供のためにどういう保育がいいかということで、これは雨でも外で遊ぶということで、雨靴、雨がっぱ常備で外で遊ぶ。それから、冬でも寒くても、ベビーカーで布団でぐるんで顔だけ出して外で昼寝をさせているというのも見ましたけれども、それは呼吸器を鍛えるということでやられているということだったんで、とにかく子供にとってどうなのかというところで、そういった保育なども非常に興味深いものがありました。

次お願いします。

ニュージーランドも、これは89年に子どもコミッショナーが設置されて、そこの辺りから子供にとって、いい制度ということで改革が進められ、そうなりますと、保育所、幼稚園の所管が別々ではなくて、全ての子供に必要な教育をということで教育省で一元化され、そして全ての保育施設を定期的に国の機関がチェックして、その結果をホームページに上げていく。それから、保育所の免許更新制で、その際には性犯罪みたいなことを予防するために犯罪歴チェックなども義務化したりしています。

それから、そこにはまたICTも積極的に活用して、特に保育者や教員に対する情報提供にもメール配信ですとか、特設サイトみたいなものもつくられていますし、あと親と保育者の情報共有にスマホアプリが活用されている。それから国立のオンライン学校というのは、これはニュージーランド国内は離れているので、遠隔地の子供向けにやっていた学校が、今は待機児童の子供に対してもオンラインで保育を提供するとか、多様なニーズに対応するようなことができていくということです。

それから、ニュージーランドだけではないんですが、ニュージーランドでは、親がこの時間働くとか家で在宅勤務しますといった働く時間や場所について、要望できる制度も認められているということです。

次お願いします。

それから、ニュージーランドの情報提供というところでは、国のホームページ、日本で言うと厚生労働省、文部科学省のページに親向けの情報がきちんと整理されていて、どこに親が相談したらいいか、こういう時どうしたらいいかということが非常に整理されていて、ニュージーランドは子供の年齢別に施設の選び方が、こういうことがあったらどうするかということが、英語であっても日本人でも分かりやすいぐらいに整備されているということ。ただ、ホームページに出したら終わりではなくて、そういう情報が得やすい仕組みもいろいろあって、2つ目にありますのは、親が運営する幼児教育施設も制度化されていまして、親が運営するので、すごく親同士のつながりが強くなるし、あと親が学ぶ学習プログラムもそこでは必須なので、本なんかも幼児教育施設で借りられるようになっていきますけれども、親が情報を得やすくなっているというところも非常にうらやましく思います。

それから、乳幼児期は本当に大変なので、24時間365日何でも電話かけていいよというプランケットラインというものもあります。

次お願いします。

あとイギリスですね。これも子どもコミッショナーで、そういう機関が設置されて、子供の立場に立った政策がいろいろありまして、ここもイギリスの子供が世界で一番幸せになるようにということがフレーズとして出てきたりもしています。

面白いのは、遊びについても国が真剣に考えていて、PLAY STRATEGY というもの、スコットランドの冊子の写真を出しておりますけれども、ロンドンだと、とにかく道で遊べるようにしようということで、時間を決めて遊び場に変えられるという仕組みが広がってたりもします。

それから、子供の意見尊重・参加というところで、そこは非常に保育施設などでも重視されていて、優れた放課後児童クラブのレポートなんか見ますと、子供会議で子供の意見を聞いて運営しているというようなことがあったりしますし、最近見つけたところでは、リーズという市では、そもそも子供のメンタルヘルスのための Web サイトをまちがつくるというところもすごいんですけれども、その制作過程に子供を参画させるというようなこともやられていて、そういったところもちょっと注目されるなど思っています。

それから、海外というのは、保育施設や学校というのは子供のためだけではなくて、そこを通じて親も支援するというところで、親の就労支援、あるいは親の健康づくり、あと悩みを聞き出すとか、そんなこともやったりしています。スポーツクラブの安全確保のために、親向けに情報提供して、こういうことあったら通報してくださいとか、注意したほうがいいですよというようなことも国から出されていたりします。

次お願いします。

最後、フィンランドですけれども、こちらも2004年に子どもオムブズマンを設置されている国で、有名なのはこのネウボラという日本でも少しずつ広がっていますけれども、同じ担当者が妊娠期から小学校入学までの家族に寄り添って、健診とか夫婦の心のケアまでトータルに支援しているというのが全国に普及しているということです。

それから、最近興味を持っているのは、図書館での子供支援ということで、オンラインでゲームができたり、おしゃべりできる、ものづくりもできる。図書館でゲームソフトも借りられる、それから縄跳びも借りられるということも出ていまして、要は遊びにおける格差をなくすという考え方があるということで、電子書籍貸し出しなども普及しています。

それからもう1つは、公園のあり方も、子供仕様といいますか、スタッフが常駐する公園というのがヘルシンキなどではありまして、午前は親子で集まって、午後はここの写真にありますようにおやつ食べたり、ゲームしたりというような、そんな子供の居場所になっています。

次お願いします。

最後は、それを踏まえて日本でということで、私自身は、長年、少子化対策見てきている中で、やはり子供を幸せにすることというのを少子化対策の中心に置くべきではないかと思っております。日本の課題としては、左下に書きましたように、先ほど海外の取り組みにあって日本にないものとしては、そういった子供の意見の尊重、あるいは子供、親、教員への情報へのアクセスの状況ですね。それから子供への暴力やメンタルヘルス、そして働き方の見直しなどが、たぶん考えるべき課題ではないかなと思っております。以上です。

【秋田座長】 池本様、どうもありがとうございます。

それでは、引き続きまして安藏様から、「わが国の少子化の本質とアフターコロナの家族—人口学的考察とオランダの経験—」をテーマに10分程度でお願いしたいと思います。

安藏様、よろしくお願いいたします。

【安藏プレゼンター】 よろしく申し上げます。実は私、大学教授と校長をずっとやっております。専門は人口統計学でして、先ほど1.57ショックとかいろいろ話が出てますけど、日本の人口学会の会長もやっておりますし、今日はエビデンスをいっぱい持ってきたんですけど、10分ということなのでほとんどお見せできないので、後で質問のときにお見せしたいと思います。最初に結論から全部話しちゃいます。非常に衝撃的な話になると思います。

「少子化」と皆さん言いますが、少子化は今止まっています。「超低出生社会」と言ったほうが正しいです。少子化というのは、次のファイルですけども、合計特殊出生率2.06というのが人口を一つの世代が次の世代と同じ大きさでいる数値なんですけども、それを下回ってずっと低下傾向が続くのを少子化と言います。1974年が2.05で、これ第2次ベビーブーマーのときなんですけど、それ以降2005年まで、ちょっと次のグラフ見てください。この黒の実線ですね。1974年を最後に2005年まで1.26まで下がり続けたんですけど、最近、反転して上がっています。

28ページに戻ってください。反転してますが、これは晩婚化で皆さん年齢の上の女性たちが頑張ったというのが後のデータで出てきます。

少子化のその原因なんですけど、実は少子化の主因は、有配偶率の低下あるいは未婚率が全部の80%から90%説明しています。

表10まで行けますか、ずっと後ろのほうですけど。はい、これです。

これ国立社会保障・人口問題研究所の岩澤さんが分析したやつですけども、一番右のほうを見ていただきたいんですけど、1975年から2005年の合計特殊出生率が1.93から1.24まで下がってます。これを減少率100%とすると、初婚行動に起因するという変化が77.7%、約80%、それ以外の行動で少子化に影響するのは22%ということです。

すみません、その次のページへ行ってください。

これは同じく出生の動向基本調査で出ているんですけども、持ちたいと思う子供を持ってない場合何が原因かというのを聞いているんですけど、一番右のほうで、「年齢や健康上の理由」で子供ができないということが41.6%、つまり初婚行動以外の20%のうちの40%が、全体の8%ぐらい、これが晩婚化の影響なんです、晩婚化、晩産化。で、「家事・育児の協力者がいない」というのが11%、それから「保育所などへ預けるところがない」というのが12%、これは20%のうちの11%、12%ですから、全体の2%ぐらいでしかないということです。

最初の28ページに戻ってください。

そうすると、今まで育児・子育て支援というのが少子化対策だと皆さん思ってたんですけども、これは全体の2%、あるいは2.5%のところをいじっていただけで、全体の80%には全然手を付けてないということがすごく重要な問題でした。

わが国では、有配偶者は大体2人の子供を持っていますが、最近、若干晩婚化していて1.8ぐらいまで下がってますけども、大体結婚すれば2人は持つ。つまり、育児・子育て支援というのは少子化対策としてはあまり大きな効果は持たない。じゃ、なぜそんなに重要かというと、これは長期的な家族政策の観点から非常に重要で、説明についてはオランダの例を見ていきたいと思えます。今までお話したところのデータは、この後のページに全部入っています。後ほど時間があれば。

後ろのほうへ行ってください。42ページ、はい、ここです。

オランダが「世界で一番子供が幸せな国」って言われてるんですけども、これは何かというと、ユニセフの調査で出た数字です。日本はかなり下のほうになってます。後で映します。オランダの調査、2016年の11月に2週間ほど行って、結構厳しい調査でした。官公庁、様々な企業、学校、保育園、それから一般家庭などでもヒアリングをして来ました。その内容を『18時に帰る』というこの本にまとめました。

次、オランダのスライドに行ってください。次行ってください。次行ってください。はい。

これが2013年のユニセフが出した子供が幸せだという数字なんですけど、これは5つの分野で出ていますけど、オランダが2位、5位、2位、3位、4位とって平均ではトップ。日本はそのとき教育は1位でしたけど、教育と安全では1位でしたけど、そのほかでは数値が悪くて全体的には6位。

次のページ、行ってください。

これは2020年、最新の数字です。これは指標が変わってまして、精神的、それから身体的、あとスキルってなってますけど、オランダがまた1位で、日本は何と20位まで降下してしまいました。

はい、次行ってください。

これはオランダの出生率です。これはあとのヒアリングで聞いたんですけども、オランダは一切少子化対策はやっていない。少子化の対策は一切しなくて、家族政策をやっているということです。これは本当にびっくりするぐらいの話なんですけど、日本は少子化対策をやっているからこれ上がってると思ってますけど、オランダはやっていないとオランダが言ってます。

次行ってください。はい、次行ってください。

これはオランダで2人以降の子供を持つときの壁、これ41%、一番下ですね。これオランダは初婚年齢がずっと高くなっていて30歳超えているんで、やはり第1子が持ちにくくなっているということですね。

次にずっと行ってください。はい、はい、はい、そこ止まってください。一個戻って、はい。

これは私たちが行った役所、それから個人の家、それからサッカークラブとか学校の全て見えました。

はい、次に行ってください。その次、はい。1つ戻ってください。

オランダは、皆さんご存じのとおり、天然ガスでエネルギーの供給でかなり景気がよかったですけど、その後バブルがはじけて、すごい失業率で、賃金が高く、このときは片働きです。お父さんが働いてお母さんが専業主婦という時代でした。それが「オランダ病」ということになって、にっちもさっちもいかなかったんですけど、次のページに行ってください。

こういうワッセナーで、政府と労働組合と企業がこういう合意をしました。社会保障、雇用の問題、それから企業のほうは時間を短縮する、労働時間を短縮する。労働組合は賃金カットを認める。この合意ができて何が起きたかという、次のページです。片働きでお父さんが働いてお母さんが専業主婦から、両方が75%ぐらいずつ働いて1.5にするという、収入は上昇するということです。

次のページです。

これをオランダモデル、あるいは「ポルダーモデル」というふうに言っています。

次行きます。

基本は同一労働同一賃金、同じ人が同じスキルでパートにするかフルタイムにするかでやりますから、時間単位の賃金は同じである。

次行ってください。

日本の雇用の形というのは、正社員、契約社員、パート、派遣社員という割り方ですけど、オランダは、フルタイムとパートタイムは両方とも正社員です。あとはフレキシブルに働く人です。

次のページへ行ってください。

一番重要なのは、やっぱり労働法です、少子化対策における。労働法で労働時間をいろいろコントロールすることによって、雇用の機会を増やしたり、世帯収入では増えるという形をしました。

次に行ってください。

いろんな法律を整備してます。先ほど役所の方がまとめてくださったような内容に全部こうなってます。

次行ってください。

これもそうですね。パートタイムの歴史がこうやって変わってきたということです。

次に行ってください。

こういういろんな制度をつくって、導入して、出生率への影響が出てきたのかもしれませんが。

次行ってください。

このフルタイム、パートタイムが常に行き来できる。自分のライフコースに合わせてフルタイムになったりパートタイムに戻ったり、賃金は時間数によってあるいはFRINGE BENEFITもそれに沿って変わっていきます。

次のページに行ってください。次に行ってください。どんどん送ってください。はい。

役所のほうはいろんな法律でやっています。次のページ、保育に関していろんな形の保育が選べます。次のページ、これが印象的なんですけど、お父さんの働き方、お母さんの働き方、子供の生活の仕方、つまり日によってお父さんとお母さんが働く日が違って、子供を面倒見る日が変わってますね。子供は常にパパとママどっちかというし、家族で一緒にいると。これが子供を幸せにする一番大きな要因です。

一番印象的だったのは、ユトレフト大学の経済学部の教授と話したときですけど、オランダはなぜ世界で一番子供が幸せなんですかと聞いたら、それは「世界でパパとママが一番幸せだから」幸せなんですよと言ってました。つまり、子供と一緒に生活をして家族を形成するということが重要ということです。

はい、次に行ってください。

全体的にこういういろんな形があって、家族が子供を育てるのが基本です。預けることが重要ではなくて、家族が面倒見れないときに預けるということ、相談するということができてます。

次に行ってください。

これ時間が足りないのでずっと飛ばしますけども、いろんな企業に行きました。それぞれの企業で、ずっとゆっくり飛ばしながらお願いします。多くの人達が自らのライフステージに合わせて生活をしていますが、テレワークが普及していますが、会社が全部管理していません。ログも取らないし、Webカメラもやらない。自分で、チームで管理して、チームで目標を決めて、それを達成するようにチームワークでやって、チームの評価ということをやります。これは働く人とボスが話し合いで全部決めていきます。

次行ってください。

これは食品会社です。

次行ってください。

これ大きな食品会社なんですけど、席がありません。800名の社員いるところ500の机しかないという会社で、みんなテレワークやいろんなことでやっています。フルで働く人がだいぶ減ってきて、水曜日、金曜日はみんな休みを取っています。

次行ってください。

これも同じですね。3日、4日働く。今まで5日働かないと昇進できなかったんですけど、今、3日、4日でも昇進できるということです。

次行ってください。次行ってください。

これはJRみたいな国鉄です、プロレール。ここも全部作業は、チームリーダーとそのチームメンバーが話し合って、どういう時間、どういう働き方をするか、あるいはもう少しスキルを上げたいからちょっと休んで大学に行って勉強するとか、そういうことをみんなでサポートしています。

次行ってください。

この辺もそうですね。

次行ってください。

これはKLMです。

次行ってください。

ここは飛行機の会社なんで、人の手当てがちょっと大変で、足らなくなったらほかの人を雇う、あるいは労働時間を増やす。これも全部話し合いで行っているようです。

次行ってください。

やっぱりチームの目標をつくって、そこで働く人たちがみんな幸せになってスキルを上げるという働き方、これが基本です。

次行ってください。

これは銀行です。

次行ってください。

これはオフィスなんですけど、みんな自分の席がなくていろんなところに散らばって仕事をします。全部Wi-Fiでつながっています。

次行ってください。はい、次行ってください。

この下の壁にあるボードですが、私がどこにいるかというのをここに貼ってあります。そのボードの隣の部屋は、右側にシーツとのがありますが、ここではお話は一切しないで仕事ができるという環境です。

次に行ってください。

これは学校です。

次行ってください。

イエナプランとかいろんな教育の仕方があるんですけど、親が自分たちで選ぶ。

次行ってください。

これ私ですけど、みんな違う格好、同じクラスなんですけど、違う科目を勉強したりしています。パソコン使っている人もいれば、紙でやる人もいます。絵を描いている子もいますし、私みたいな典型的な学校の校長をやっていると、これは学級崩壊に近い形ですけど、先生が全部よくコントロールしています。それから PTA、親も入ってサポートしているんで、学校は全部オープンにされて、ここで教育をしています。

次行ってください。

オランダの特徴ですけど、みんなで話し合っ、みんなで決めたことはみんなで守るという形でやっています。

どんどん行ってください。はい、話し合い、信頼関係。はい次、こういう形です。チーム主義を取っています。まず、家族がファーストですね。それからフレキシビリティやテレワーク等があつて、アウトプットを導入する。

次行きます。

こういう形で、自分たちのライフステージに合わせて労働時間も選ぶしということですけど、何しろ最重要なのはファミリーファーストです。18 時には家に帰って、お父さんもお母さんもそろってご飯をみんなで食べる。リビングのカーテンは閉めません。外から見えるようにして、私たちはこんな楽しい家庭なんだよというふうにやっています。

今、アフターコロナの問題ですけど、今、テレワークがどの企業も入れてきて、本当にこれが働き方の一番大きな変革の最後のチャンスかもしれない。これでオランダのような形でファミリーファーストの考え方で家族がみんないると。家の中密になっても構いませんから、家で密をつくってみんな幸せになるというアフターコロナの家庭をつくるということを自治体も国も企業も支援していけば、オランダのようにたった 30 年あるいは 40 年で社会が変わります。

次に行ってください。

この方はおじいさん、おばあさんで、いろいろ話を聞いたんですけど、何と私より若い人でした。ショック、ショックを受けたんですけど、この人が、奥さんが専業主婦だったんですけど、学校の先生として働いて、子供が育って、今幸せだよと、18 時には帰るんだよというアドバイスをしてくれた方です。

次行ってください。

こうやって、89%は家族と一緒に食事をしていました。以上です。

【秋田座長】 安藏様、どうもありがとうございます。池本様、安藏様、お二人とも大変興味深く示唆に富んだプレゼンテーション、本当にありがとうございます。

それでは、意見交換に入りたいと思います。それぞれのお立場から、お二人のプレゼンテーションを踏まえまして、日本の長年の課題でございます少子化について、今後どのような視点やアプローチが必要なのかをお話しいただければと存じます。

まず、恐縮ですが、お一人 3 分程度でお願いいたします。五十音順でお願いしたいと思います

ので、まず、新井委員からお願いいたします。

【新井委員】 おはようございます、皆様。そして、プレゼンターのお二人、大変興味深いお話をありがとうございました。

このコロナから、ポストコロナの間に、どうしても失業率が、日本であるにもかかわらず、今回上がらざるを得ないと思っています。収入も極めて不安定な状態になるだろうというふうに考えておりますので、どうしても安藏先生がおっしゃったように経済の状態に出生率は連動しますので、どうしても低い状態が何をしても続くということが続いてしまうと思います。けれども、そういう中で何ができるかということを考えたいと思っています。

現在、日本では個人の家庭が教育支出をする割合がヨーロッパ等に比べると極めて高い。その中でも、高校など無償化等進んでいますので、何が問題かという塾です。

私、今、板橋区でリーディングスキルテストと呼ばれる教科書が本当に読めるかということについての調査、全数調査させていただいています。板橋区では、6年生から中学3年生までが、教科書の中から取り出した200字程度の文が正確に読めているかというのを全員が、CBTで能力別で、個に合わせた形のCATと言われる仕組みで診断を受けています。それに基づいて、授業改善を板橋区はiカリキュラムということで行っております。

その中で見えてきたことなんですけれども、まず、子供たちは中学年以上自学自習ができません。自学自習ができないというのは、とても不思議なことに思われると思うんですけれども、教科書を自分で読み解く能力が低いとか、あるいは自分のスキルをメタに把握ができない。例えば自分は何が不得意で何が得意なのかということに関してメタ認知ができないとか、あるいは基本的な学習のためのスキル、例えば手先の器用さであるとか、鉛筆をきちんと持って書けるとか、時間をはかって目標を立てるとか、そういう基本的な学習スキルが身に付いていないお子さんが中学年以上非常に多くて、それは中学生もそうです。そのために自学自習が基本的にできないお子さんがクラスの3分の2以上を占めます。

そういう中で、板橋の志村第六小学校では、全員が自学自習ができることによって、例えば、貧困にあるご家庭であったら、塾に通わなくても、学校と、学校の放課後に自学自習指導員のよな者をうちのセンターから派遣を週1回してござりまして、どういふふうにな自学自習をすればいいか、あるいは自学自習の中には答えの丸付けというのがあるんですね。選択式でしたら丸付け簡単なんですけど、中学年以上になりますと記述式が出てきます。記述式の問題の回答を見ながら、自分が書いたものが正しいか正しくないかを判定するというのは、結構高い能力を要します。それができないお子さんがいます。

ということで、自学自習ができて、塾に通わなくてもよくて、学校である意味学びが完結すると、ご家庭の塾等に支払わなければいけない支出が減ります。そうしますと、安心して公立の小中学校に通わせることで勉強はできるんだというふうにな、安心していただけるということが重要ではないかと思っています。

実際板橋区でそういう取り組みをしましてところ、比較的成績中位層や、やや下位層、一番下

の子はさまざまな課題を抱えていることも多いので専門家の支援がどうしても必要ですが、一番重要なのは、ボリュームゾーンである中位層が自学自習をして、塾に行かなくても学校とプラスアルファの放課後支援くらいで自学自習ができて、そして学びに対して自信を持っていける。そして、ご家庭がそれを安心できるということが重要なことだと思っておりますので、そういう支援をしています。まずはご紹介をさせていただきました。以上でございます。

【秋田座長】 新井委員、どうもありがとうございます。

続きまして、大谷委員お願いいたします。

【大谷委員】 ありがとうございます。最初に、小池知事がおっしゃったことについて、一言コメントさせていただきます。

まさにコロナの中で子供の問題を取り上げる、これは本当に素晴らしいことだと思います。今、世界的には、コロナの中で子供の問題が後回しになっているという大変大きな懸念があります。このコロナによって子供たちが受けている影響というものが非常に長期的なものになり、またそのコロナの後の社会をつくっていくときに、今、リカバーベター、フィードバックベターという言葉遣いをよく国連でしていますが、これはまさに知事がおっしゃったサステナブルリカバリーということにつながることで、このコロナのときにこそ、子供の問題にしっかり焦点を当てて、コロナ後の世界にどのようにそれを生かしていくのかということ議論しなくちゃいけないということの世界で話し合っていますが、まさに東京都でそれをされようとしているということで、大変感銘を受けました。

それから、池本さん、安藏さんのご発言に関して、幾つか共通する点もあったかと思いますが、コメントをさせていただきます。

1点目は、子どもの権利条約の視点の課題と絡めてお話しするんですが、子どもの権利条約では少子化対策という言葉はありません。それは、子供がいること、生まれている子供を前提に、その子供がどういう権利があるかという観点で条約はつくられているからです。

ただ、子供を中心に子供の幸せ、Well-being というものを考えたときに、その子供を支える子育てをしている親が幸せでなければいけない。子供がなるべく家庭で、愛情の中で、また親が幸せな状態で育つことが子供にとっての Well-being になるという観点から、例えば保育ですとか、あるいは親に対する支援、親の働き方をどうするかといったことまで、子どもの権利という観点から考えています。

その意味では、まさに今日お話にありましたように、保育、それから働き方の支援とか、そういうものを子供ということを中心にどう考えていくかというその視点というのは、まさに子どもの権利条約に沿った考え方だと思っております。

ニュージーランドの話が出たんですが、ニュージーランドは、2019年初めて Well-being、幸せということ予算に組み込んだ世界で初のそういう試みをしたと言われていますが、東京都では、前回私も初めて知ったんですが、東京都の予算を子供向けに分かりやすく解説されているものをつくられていて、これも大変感銘しました。まさに東京で子供の幸せということ今度は予算に

どう反映させていくかということも考えていただけるとありがたいと思います。

池本さんのお話では、まさに子供を中心にしようというときに、子供の幸せのために子供の参加、子どもコミッショナーという仕組みがあることが、それが国の政策に子供の幸せをしっかりと落とし込んでいくということにつながっているという点、あるいは遊びのことを強調されましたが、子どもの権利条約 31 条に遊びの権利というのが子供の幸せのために重要なものとして位置付けられていることとも通じるお話だと思いました。

最後に、安藏さんのお話と池本さんのお話にも通じるんですが、まさに学校や図書館、公園、それから地域、家庭というものが一体となつてつながっている、子供のためにつながっているということが大事だと思いましたことと、安藏さんのお話で家族政策の話がされました。ヨーロッパでは、家族を形成する権利、家族生活の尊重の権利、家族を持つ、子供と一緒に過ごすということが、個人の幸せとして重要なことと位置付けられています。まさにそういう観点が大事だと思います。

日本では、子供を持つということがまるでコストのような、子供を持つと一生幾らかかるという保険会社のコストの話が出たりしますが、まさに子供を持つということが個人の幸せなんだということが、もうちょっと強調されるべきだと思います。

最後に、すみません、時間過ぎて。1 点だけ、小池知事がコロナのためにまたさらに出生率が下がるんじゃないかという懸念をちょっとおっしゃったんですが、もう 1 つ、子どもの権利の観点から、今、世界中で心配しておりますことを、コロナの状況で望まない妊娠をしてしまった、特に若い女性が増えているのではないかという懸念があります。そういう人たちが相談できる場所はどうなっているか。そういう妊娠の子供さんをどうしていくか。

晩婚化の話とかがあったんですが、フランス、スウェーデン通じまして、法律婚をしないカップル、多様なカップルを社会が受け入れ、そういうカップルからの子供が同じように幸せになるようにということで、そういうこともフランスやスウェーデン、ヨーロッパでの少子化、子供が減ってきたことにもつながっていると思いますので、多様なカップルから生まれた子供の幸せを考えていくという視点を東京で持っていただけるとありがたいと思います。以上です。

【秋田座長】 どうもありがとうございます。

それでは、小林委員お願いいたします。小林委員、ミュートを解除いただいてご発言ください。

【小林委員】 失礼いたしました。改めまして、小林よしひさです。皆さんよろしく願いいたします。

初めに、今回この会議に参加することで、いろんな勉強ができて、本当に楽しくわくわくしている気持ちで現在おります。

まず、池本さんの話のほうからいきたいと思います。子供の幸せが少子化の対策につながっていくという、本当にまさにそのとおりだなと思いました。世界ではいろんな経済支援、両立支援等することによって少子化対策が行われているということでしたけれども、日本でももちろんこういうことは行われていますが、子供に視点を置くというところでまた新しい政策の方法という

のが見つかるのではないのかなと、話を聞いていて思いました。

個人的にちょっと気になったところが、フィンランドの図書館の話、子供の遊びの格差をなくしていくというところはすごくいいなと思いました。図書館に行くことで、日本で言うと本を読む、勉強するというような環境だと思うんですけども、そこでいろんな遊びが、行くことで子供たちに提供ができると。おしゃべりであったり、中にはゲームソフトも借りられるという話もありますし、そして縄跳びとか運動遊びなんかもできると。こういう状況というのは非常に大切なことだなということと、スタッフの常駐をしている公園があるというのも、前回、子供たちの遊び環境というものが少なくなっているのではないかと、安全性がなくなっているのではないかという話があったと思うんですけども、こういった公園があることによって、親子の集まりであったり、親のコミュニティであったり、そして安全に子供を親が遊びに送り出せるという環境もあるんだなと、そこは本当に素晴らしいなと思いました。

あと、イギリスの遊びの国家戦略という話があったと思うんですけども、これはすごいなと。国を通して遊びというものを国家戦略にしているというのは、非常に興味の深いところだなと思いました。

続いて、安藏さんのお話なんですけれども、今回のことでオランダという国が、子供が一番幸せであると感じている国ということを知り、すごく興味を持ちました。そのデータの中で、2人目を生むときの壁というところで、日本では経済的な不安というところが確かパーセンテージが多かったと思うんですけども、私も1人の娘がいるんですけど、やはり2人目となったときに不安に思うことというのは、もちろん経済的なことと、あともう1つは、2人目が生まれることによって自分の仕事に何か影響があるのではないかという気持ちもありました。でも、そんな中、オランダという国では仕事の仕方とを選べるというのが確立されているというのはすごいなと思いました。

ちょっと話は飛んでしまうんですけども、私自身が子供と運動遊びをするときに注意していることとか、気を付けていることというのが、しっかりと話を聞く、対話をするということをしているんですけども、例えば今日駆けっこをして遊ぼうと子供たちのところに行っても、会話をするとその子供たちは実はボールで遊びたかったというのが聞き出せると、より楽しい遊びになりますし、あと子供たちもしっかりと自分たちの意見を発言したりとか、物をチョイスするという能力がつくということもあって、そういったことを注意しているんですけども、このオランダという国は子供と大人が平等であるという考えが根づいているというのを聞いたことがあって、子供もしっかり主張しますし、親は一人の人間として自分の時間もしっかり持つようにして、お父さん、お母さんの幸せも大切にしている国だということを聞いたことがあって、まさにそういった考え方があるからこそ、そういった仕事を選ぶという考え方がしっかりと根づいているのかなと思いました。

今、コロナによって日本も、先ほどお話がありましたけれども、テレワークというのが出てきて、実際「あれっ、これで済んだんだな、この仕事」という感覚というのを皆さんきっとあった

と思うので、そのアフターコロナというところに来たときに、こういった仕事を選びながら、でも賃金というのは維持しつつできるという環境をつくることによって、本当に家庭の幸せ、イコールお父さん、お母さんの幸せ、そして子供の幸せにつながってくるのではないのかなというふうにお話を聞いて思いました。以上です。

【秋田座長】 どうもありがとうございます。

本日ご欠席の安藤委員からも事前にご意見をいただいておりますので、ご紹介させていただきます。

安藤委員からのメッセージです。日本の国や自治体の両立支援策は、子育て中の女性・母親に偏っており、今後は男性・父親においても、育児休業や看護休暇の取得促進の制度だけでなく風土改革を進めてほしい。特に経営者や職場の管理職世代の意識改革が肝です。フレックスタイムやテレワークはコロナ禍で進んだ部分もありますが、一部の業種や中小企業では遅れています。助成金制度などを充実させて、多様な働き方ができる職場環境を進めてほしい。育児や介護だけではない社員の多様な事情、例えば不妊治療中の方などに目を向ける必要があります。以上です。

今、プレゼンテーションや委員の皆様からのご発言を受けまして、小池知事から何かございますでしょうか。

【小池知事】 まず、池本さん、そして安藏先生、本当にありがとうございました。秋田先生、ありがとうございました。非常に参考になるご意見ありがとうございます。

興味深いところでは、これはオランダですか、オランダだけじゃなかったですね。少子化対策がない、だけど家族対策があるということは非常に参考になりました。少子化対策ということが、特に子育てで保育園に落ちたというところから、非常にこの問題に的が当たったといいますか、私は、国として、デモグラフィー、やはり人口動態というのは非常に大きな要素だと思っており、そういう観点と、それから女性であれ、男性であれ、子供であれ、みんな自己実現したいものです。それをどういうふうにサポートしていくことができるか。政治、行政からのサポート、そしてそれに係る税金を活用するわけですから、多くの場合は、そこをどう効果的に行っていくのか。そのバランスなんだろうということで進めてきたわけであります。

国会議員時代から、今日安藏先生がおっしゃったように未婚率の話ですね。これ以前からよく言われていることで、かつ晩婚率の話でございます。晩婚化の話でございます。そういう中で、国会議員のころから、婚活をもっと応援したらどうだと言うと、そんなの税金を使うものではないと。

そもそも飲み食いに税金を使うという話ではないので、そこはより……昔は、世話焼きのおばさんがいたり、それから会社の中にいろんな保険の営業おばさんが世話を焼いてくれたり、そういう潤滑油の方たちがいらしたんですけれども、それもなく、ましてや個人情報保護だと言って何も分からない。そんないろんなことが複合的に重なってきている。

そしてまた一方で、教育費がかさむことによって子供を持つのは1人で十分とか、大体アンケートを取ると、結婚されると2人から3人欲しいという数字が出てくるんですけれども、話があ

ちこちになりますけれども、今日伺った話の中で、家族政策として取り組むべきだというのは、コロナ禍においてステイホームで、そして家族ということが改めて見直され、そしてこれまでも進めてきましたテレワークが劇的に進むようになって、これまでそんなのできないという、できない論から入っていたのが、やるしかないという状況になって、皆さんある意味困難さも感じながらも、共感を得るようになってきているということから、政策のあり方を少子化ということだけでなく、家族の政策として取り組むべきというのは、大変示唆に富んだお話、本当にありがとうございます。

よくニュージーランドとかフィンランドのお話を出すと、フィンランドの場合の税金の高さ、それからニュージーランドは人口が羊の数より少ないじゃないとか、できない理由ばかりダーッとすぐ並べられることが多いんですけども、今日の各国のお話など本当に参考になりました。

ちなみに、各国の例で言うと、アジアの諸国というのは、特に日中、中はちょっと微妙ですが、一人っ子政策（補足：2015年まで実施）ですからね。韓国と台湾の出生率の低さというのは非常に際立っている。また、ヨーロッパでもイタリアなど非常に低いということがあります。また、そういう低さの原因は何なんだろうかというのもいろんな共通項も出てくるのではないかな。そんなことも、これから先生方にご協力いただいて、日本のあるべき姿、日本の東京、そして東京のあるべき姿というのを進めさせていただければと、このように考えております。本当にご示唆に富むさまざまなご意見、本当にありがとうございました。

【秋田座長】 ありがとうございます。

それでは、池本様、安藏様にも、各委員や知事のご発言を受けて一言ご意見、ご発言いただきたいと思います。

池本様、お願いします。

【池本プレゼンター】 まず、安藏先生の未婚率のことで、今、若い人たちはなぜ少子化しているかという、こんなに子育て家庭大変だという情報ばかりが流れてしまって、結婚をしたいという気持ちが低下しちゃっているという状況があるので、昔はこうだったけど、こういうふうに今改善されて子育て楽しいって、子供幸せになれるよというような情報が提供できるようにしたいなと思います。

それからあと、小林さんのコロナ禍の東京都のテレビの番組ですね。私も子供がいるので、小学校休校になって本当に途方に暮れて、どうしようという感じだったんですね。それで、仕事柄、ニュージーランドではテレビ放送が休校と同時に始まって、学年別に全部テレビ番組が毎日放送されたということを見ていて、そんな中で偶然東京都がテレビをやっているということを知って、私知ったのも随分遅かったですし、せっかくなさっていても、まさにやっているという情報が伝わってないというようなことも非常にもったいないことだなと思ったところで、情報提供ってあんまり日本で注目されていないと思うんですが、情報があることで親は本当に助かって、力を発揮できることがたくさんあるので、その辺り東京都には、そういうふうに発信したものが必ず親

とか子供に伝わるようなことにも力を入れていただきたいなど、今日はお願いをしたいと思います。ありがとうございました。

【秋田座長】 ありがとうございました。

それでは、安藏様お願いします。

【安藏プレゼンター】今日はまたいいチャンスを与えていただきまして、ありがとうございます。データいっぱい持ってきたので、ちょっとだけ紹介させてください。

34 ページちょっとお願いします。

これ有配偶女性の出生率なんですけど、黄色のところをちょっと見ていただきたいんですけど、30 歳前半と後半ですね。これ出生率上がっているんですよ。それから、20 代前半、後半は出生率ほとんど下がってないんですね。それから、10 代のほうは、これは子供ができて結婚する人が多いんで急激に上がってますけど、つまり結婚した人たちはちゃんと子供を生んでいるというのは、これは理解していただきたいと思います。

次の 35 ページに行ってください。

これも合計出生率と合計結婚出生率なんですけど、結婚した女性はちゃんと子供を生んでいるというデータが出てます。

じゃ、問題ないかということ、37 ページに行ってください。

これが女性の未婚率ですね。20 代前半ではほとんど 91%結婚していません。20 代後半では半分以上ですね、6 割。それから、30 代前半で 3 人に 1 人、30 代後半で 4 人に 1 人が未婚。未婚というのは一度も結婚してないということなんですけど、1980 年ぐらいのときには「25 日のクリスマスケーキ」で売れ残っちゃったと言われていたのが、今は大晦日、大晦日を越えそうなところですよ。

次のページ行ってください。

女性ばかり責めるとあれなんで、この男性のていたらしく。40 代後半でさえ 4 人に 1 人がまだ未婚という、男が情けない、日本は。女性の頭でも引っぱたいて連れてくるぐらいの勇気がないのかなと思います。

それから、次のページ、これは生涯未婚で、50 歳まで結婚しないという人たちですね。これが今後、男性で約 30%、女性で 20%まで上がるということになると、子供は全然出てこないですね。

次のページ行ってください。

これが平均出産年齢ですね。30 歳ですから、まあ 31 歳ですね。そうすると、第 2 子は大体 3 年空きますんで、35 歳ぐらいになってしまう。とても第 3 子を持てる確率は非常に少なくなってしまうというのが現状で、人口の半分がこの行動をしていて、半分はこれ以降の年ですから、これはやっぱり女性は 20 代後半で結婚して、すてきな男性と巡り合っというふうに僕は願ってるんですけど、男性が何しろ情けない。

地域のお見合い、自治体もよくやってますけど、僕もあれ大反対で、あそこに来る人は非正規の男性と高学歴の女性なんです。非正規の男性と高学歴の女性、幾らマッチングしたってマッ

チングできません。そこに自治体のお金を使うのはあまりにも愚かということをいろんな自治体で言うてきましたけど、成果はほとんどないそうです。マニアの人がいつも来ると言うてました。

そういうことで、日本の少子化の一番大きな原因は、やっぱり若い女性たちが結婚しない、男は女性に選ばれてないと。この辺をどうにしかしないと少子化は直らないんですけど、結婚して子供を育てるのはすてきだよとなれば、若い子たちは結婚して、うちの娘、今、30歳なんですけど、娘の同級生は皆さん20代後半で結婚してます。それはなぜかという、その上の世代、40代のロスジェネですね。バブルのとき社会に出た人たちがみんなうかうかと結婚しなくて子供が持てない状況を見て、ああはなりたくないねっていう世代が出てきてますから、もう少し20代後半で結婚して子供2人は持とうよという、家族は楽しいよという発信をしたほうがいいんじゃないですかね。働きたいときに働いて、家で主に生活できるという環境をこの際つくるといいかなと思っております。以上です。

【秋田座長】 どうもありがとうございます。いろいろなご意見をいただきまして、ありがとうございます。私のほうも一言申し上げたいと思います。

【新井委員】 その前にちょっと一言よろしいですか。これは議事録に残りますので、女性を引っぱたいてでも連れてくるようなたくましい男性というようなお話はあまりよろしくなくて、やはり女性が意識が高くなっていますので、その意識の高い女性とパートナーとなって幸せな家庭を築いていただけるような、協力的な男性が増えることを願っております。

【安藏プレゼンター】 どうもありがとうございます。

【秋田座長】 どうもありがとうございます。私からも一言申し上げたいと思います。「子供の笑顔」というのが、今回、東京都の都政のファーストに出て、とても大切な視点が出されていると思いますが、今日、池本さん、それから安藏さんの両方とも、子供と子育て家庭のWell-beingですね。しかも、その一人一人のインディビジュアルなWell-beingだけじゃなくて、家族、家庭、それがまた社会のWell-beingということを高めていくのだというご指摘は、とても重要なことだと思っております。

現在、なお指摘されているワンオペ育児ですね。何度もご意見がありました。母親に負担が掛かっているというところから脱却していくためには、働き方について、今日お二方からご提示いただいたように子育て期に多様な働き方が選べるような環境が整備される、そのための政策というようなことの推進が不可欠だと思います。働き方というのが暮らしに直結する大きな要素でございますし、ご家庭の事情に合った多様な選択肢を用意する、多様な家庭のあり方を認め、それに合った選択肢を用意するというようなことが、子育て家庭にとっても、それから社会にとっても、これから大切になってくるのではないかと思います。

これまで少子化対策ということで、児童手当や経済的支援、保育所整備を中心とした待機児童対策など幅広く実施されてきているところでありますし、それが重要なことであり、引き続き取り組むべきことではあります。しかしながら、今後少子化ということを考える上で、またさらに未来を見たときに、子供を大切にするとか、「子供の笑顔」、「親の実態（正しくは、親の笑顔）」を

増やしていくというような視点のほうを哲学やビジョンとして都が明確にしていただくと
ことが、とても大事なところではないかと思えます。

出生率のみに着目するのではなくて、今いる子供の笑顔を育み、子育てが楽しいという、皆さん
がご指摘くださいましたが、そこを目指して子供と子育て家庭の well-being を向上させていく
観点がとても重要かと思えます。一見、少子化対策という議論からすれば直接的ではございませ
んの、遠回りのように見えますが、結果的に究極の少子化対策にもなるのだらうと思えます。

また、子供自身が笑顔になるためには、例えばそれが家庭とつながると同時に、都として、こ
の間お話がありました、都のお金がどう使われているか、分かりやすいノートがつけられている。
子供の視点から、子供たちがもっと家庭の親の働き方であったり、都のことの仕組みであつ
たりがみんなに見えていくような、そして池本先生が情報の周知と言われましたが、そこに子供
も参画しながら周知できるというようなことが、極めて重要なことになってくるのではないだろ
うかというふうに思っているところでございます。

本来ならば、いろいろ議論をさらに深めたいところなんですけれども、時間の関係で、あと委
員の方で1分ほど、何かお三方の委員でどうしても言っておきたいことがあれば、付け加えてい
ただくという形でいきたいと思うんですけど、いかがでしょうか。

大谷委員でございますか。

【大谷委員】 ありがとうございます。30秒で発言します。今、最後にまとめてくださった中
にも入っていたんですが、多様な家族のあり方を受け入れるということ、最後に一点強調させて
いただきます。

といいますのは、今日の議論の中で、結婚をして子供を生むということがちょっと強調された
かなという気もしましたので、さっきも発言の中で申し上げましたが、結婚していない親の子供
さん、それからシングルマザーの子供さん、そうした多様な家族をいろんな家族のあり方として、
同じように幸せな家族、その中での子育てができるように、東京都が支援していただくことをぜ
ひお願いしたいと思います。以上です。ありがとうございます。

【秋田座長】 ありがとうございます。どうぞ。

【池本プレゼンター】 池本ですけど、ちょっとだけ。すみません、先ほどオランダが世界一子
供が幸せというところで、聞いた話では、なぜあれかという、子供が例えば学校でいじめに遭
ったときに、その日に夕飯のときに親にすぐ話せるという、親に余裕があるから子供がつらくな
らないということがありまして、日本の親の状況を考えると、とにかく回すことばかりで、働
き方とか家事でいっぱい、子供の声を家庭で聞けてないなということがすごくあると
思うんですが、その働き方は単に家事が回るとかということだけで、子供の声を親が聞けるよ
うな、そういった働き方が非常に必要かなと思えます。ありがとうございます。

【秋田座長】 ありがとうございます。本来であればそれぞれの委員からご発言いただくべきと
ころなんです、知事がこの後、大丈夫ですか、安藏さんだけ、それで終わりにさせていただきます。
30秒をお願いします。

【安藏プレゼンター】 東京都のメッセージとして、18時に帰るというのを目標にしてやっていたら、みんな幸せになると思います。子供と話す時間ができます。以上です。

【秋田座長】 どうもありがとうございます。時間の関係で申し訳ありません。

それでは、最後に小池知事からごあいさつをいただきたいと思います。

【小池知事】 貴重で、かつ非常に分かりやすいご提言等いただきまして、ありがとうございます。やはり子供がにこにこしている東京というのは、将来にも希望を持てるものでございますし、今回のコロナはむしろそういった生の姿、生の問題をあぶり出しているわけでございますので、これを機にサステナブルリカバリーの方針のもとで進めていきたい、このように考えております。また、引き続きさまざまご提言をよろしくお願い申し上げます。本日は誠にありがとうございました。

【秋田座長】 小池知事、どうもありがとうございました。時間の関係で十分にご発言いただけませんでしたこと、座長としてお詫び申し上げます。

それでは、最後に事務局から連絡事項をお願いします。

【山本部長】 次回、第3回のこども未来会議の日程につきましては、また改めて日程のほうを調整させていただきたいと思います。引き続きよろしくお願いたします。以上でございます。

【秋田座長】 本日は長時間にわたりお疲れさまでした。以上をもちまして会議を終了いたします。どうもありがとうございました。

—— 了 ——

※会議中に一時通信障害による音声不良があったため、各委員に確認の上、可能な範囲で追記いたしました。該当部分には下線を付しています。また、読みやすさを考慮し、重複した言葉づかい、明らかな言い直しなどの整理や補足説明をしています。